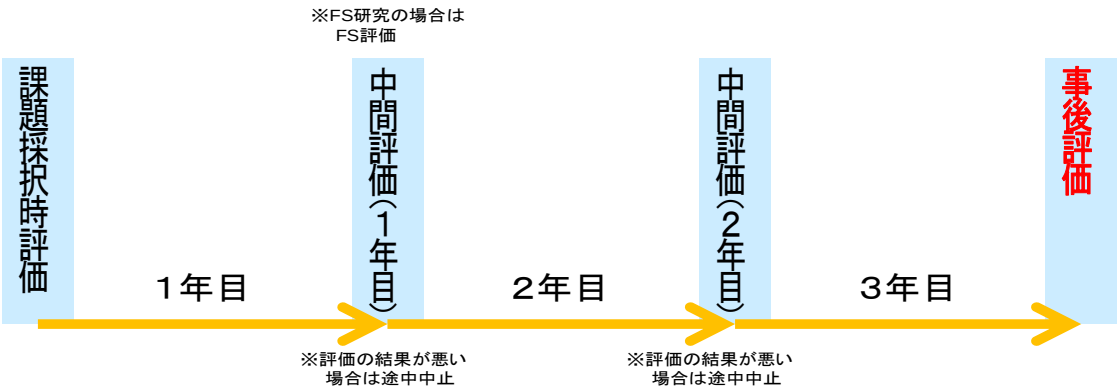
平成24年度終了課題の事後評価について

資料２

① 事後評価の位置付け

技術研究開発の採択～評価の流れ



③スケジュール

	Ｈ２５年度				
	６月	７月	８月	９月	１０月
第２１回新道路技術会議（事後評価要領等決定）	▼ 6/6				
事後評価関係書類作成（研究代表者への通知等）	▼ 資料作成期間（約2ヶ月） 作成依頼通知		提出〆切 ▼		
事前査読期間（評価委員による事前査読）			━━		
研究成果発表会（ｿﾌﾄ/ﾊｰﾄﾞ）（研究成果の普及促進）				━━	
研究評価会（ｿﾌﾄ/ﾊｰﾄﾞ）（事後評価（案）作成）				━━ ┅┅ 評価案作成	
第２２回新道路技術会議（事後評価決定）					━━

②事後評価の対象

分科会	No.	領域	タイプ	委託研究テーマ	委託先	研究代表者	評価分科会	
							分科会長	委　員
ソフト分野	22-1	3	Ⅱ	都市高速道路における突発事象時の最適交通運用についての研究開発	東京工業大学	東京工業大学 教授　朝倉　康夫	石田委員	赤羽委員 川崎委員 竹内委員 中越委員 根本委員 森川委員 吉川委員 道路局担当官 国総研道路研究官
	22-2	6	Ⅰ	混合交通流の自動解析に基づく交通安全性・円滑性評価手法および交通制御・道路運用手法の構築	京都大学	京都大学大学院 准教授　須崎　純一		

赤字：方針の見直しによる変更箇所
青字：方針の見直しを伴わない変更箇所

1. 目的

研究課題の目的達成度や研究成果等を適切に把握し、研究成果の道路政策への反映見込み等を評価するとともに、あわせて今後の制度全体の評価や見直し等に活用することを目的として、事後評価を実施。

2. 事後評価の対象・時期

研究が終了した全ての研究課題を対象とし、研究終了の翌年度に実施。

3. 事後評価の視点及び基準

（1）事後評価の視点

研究の視点、行政の視点に基づき、研究目的の達成度や研究成果、道路政策の質の向上への反映見込み等について、4段階（a～d）で評価。

研究の視点	研究目的の達成度	研究目的に照らして、その達成の度合いはどうか。
	研究成果	評価できる研究成果を上げたか。研究成果が当該研究分野等の発展に寄与できたか。
	研究成果の活用・発展性	得られた研究成果の活用や発展性などの今後の展望はどうか。研究成果の積極的な公表・普及に努めているか。
行政の視点	道路政策の質の向上への反映見込み	研究成果の実務への反映見込み等、道路政策の質の向上に資するものとなっているか。※
	研究費規模とその成果	配分された研究費規模に見合う、研究成果及び道路政策の質の向上への寄与となっているか。

評点	説　明
a	適切である／大いに期待できる
b	概ね適切である／概ね期待できる
c	やや適切でない／あまり期待できない
d	適切でない／期待できない

※公募時の研究タイプ（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）の内容・ねらいを踏まえた評価とする。

（2）評価基準

事後評価の視点ごとの評価を踏まえ、研究課題の事後評価について、4段階（A～D）で総合的に評価。

評点	説　明
A	研究目的は達成され、十分な研究成果があった。
B	研究目的は概ね達成され、研究成果があった。
C	研究成果は一部に留まった。
D	研究成果があったとは言い難い。

＜事後評価シートのイメージ＞

事後評価シート（分科会委員評価用）

【様式１】

事後評価シート

評価分科会委員	

番号	研究課題名	研究代表者

１．事後評価の結果

事後評価の視点	評　点		意　見
１．研究目的の達成度	a b c d	適切である 概ね適切である やや適切でない 適切でない	
２．研究成果	a b c d	適切である 概ね適切である やや適切でない 適切でない	
３．研究成果の活用・発展性	a b c d	大いに期待できる 概ね期待できる あまり期待できない 期待できない	
４．道路政策の質の向上への寄与	a b c d	大いに期待できる 概ね期待できる あまり期待できない 期待できない	
５．研究費規模とその成果	a b c d	適切である 概ね適切である やや適切でない 適切でない	

評価基準		意　見
A B C D	研究目的は達成され、十分な研究成果があった 研究目的は概ね達成され、研究成果があった 研究成果は一部に留まった 研究成果があったとは言い難い	

２．特記事項

（研究の目的達成度や成果に関する意見、今後の展望、実務への反映に関する指摘事項等。）

事後評価（案）（研究代表者通知用）

【様式３】

事後評価（案）

評価分科会長	○○　○○○

番号	研究課題名	研究代表者
○○	○○○○○○○○○○○に関する研究開発	○○大学　教授　○○　○○○

１．事後評価の結果（☆の数は評価した委員の数を表します。）

事後評価の視点	評　点		意　見
１．研究目的の達成度	a b c d	☆☆☆☆☆☆ ☆☆	○○○○○○○○○○○○○○
２．研究成果	a b c d	☆☆☆☆☆ ☆☆☆	○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○
３．研究成果の活用・発展性	a b c d	☆☆☆☆ ☆☆☆☆	○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○
４．道路政策の質の向上への寄与	a b c d	☆☆☆☆☆ ☆☆☆	○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○
５．研究費規模とその成果	a b c d	☆☆☆☆☆ ☆☆☆	○○○○○○○○○○○○○○○○

評価基準		意　見
Ⓐ B C D	研究目的は達成され、十分な研究成果があった 研究目的は概ね達成され、研究成果があった 研究成果は一部に留まった 研究成果があったとは言い難い	○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○

２．特記事項

（研究の目的達成度や成果に関する意見、今後の展望、実務への反映に関する指摘事項等。）

○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○ ○○○○○○○○○○

4. 表彰課題の選定

事後評価結果が「A」となった研究を全て表彰対象として選定し、新道路技術会議より「優秀技術研究開発賞」を授与するとともに、記念品（表彰盾）を贈呈。

5. 研究成果発表会の開催

研究期間終了後に研究成果に関する発表会を開催。なお、本年度の事後評価の実施にあたっては、①研究成果発表会と②研究評価会を同時開催予定（昨年度と同様の流れ）。

（H23年度終了課題（実績））

①研究成果発表会
②研究評価会（同時開催）
ソフト：H24．9．5開催
ハード：H24．9．11開催

↓

③第19回新道路技術会議
H24．10．12開催

↓

④事後評価結果・優秀技術研究開発賞の通知・公表
H24．10

（H24年度終了課題（予定））

①研究成果発表会
（目的）研究成果の普及促進
②研究評価会（同時開催）
（目的）事後評価実施、評価案作成

↓

③第22回新道路技術会議
H25秋頃開催（予定）

↓

④事後評価結果・優秀技術研究開発賞の通知・公表
H25．秋頃（予定）

昨年度と同様の流れを予定

6. 提出書類及び期限

（1）提出書類

各研究課題の研究代表者は、以下の書類を提出。

①「研究終了報告書」【様式1】
②「研究経費に関する調書」【様式2】（非公表）
③「研究概要」【様式3】（研究の背景・目的、研究内容、研究成果などをA4版2頁で簡潔に分かりやすく作成）
④「Summary of the Study」【様式4】（国際展開を見据えた情報提供の一環として、様式3の内容を英語で記述したものを作成）
⑤「技術研究開発成果報告レポート」【様式5】

（2）作成依頼・提出期間

平成25年6月上旬頃に依頼し、7月末までに提出

7. 事後評価の体制

○評価対象課題をソフト及びハード分野に区分し、2つの分科会を設置（※P．9（別紙1）参照）。
○各分科会は、新道路技術会議委員（7～8名）、行政官（1名）、研究官（1名）で構成。
○各分科会の分科会長は、新道路技術会議委員の中から選出。

8. 事後評価の手順

事後評価の手順は、次のとおり。

① 事前査読の準備

（6月上旬～7月末）

- 事務局より研究代表者に提出書類の作成依頼
- 研究代表者による書類の作成・提出
- 評価分科会各委員へ提出書類の送付

② 書類の事前査読

（8月中）

- 評価分科会各委員による書類の事前査読 （指摘事項等がある場合、研究代表者へ事前連絡）

③ 研究成果発表会・研究評価会の開催

（9月上旬～中旬）

- 研究成果の普及促進
- 評価分科会各委員による事後評価シートの作成
- 各分科会における事後評価（案）を作成するための審議

※P. 10（別紙2）参照

④ 事後評価（案）の作成

（9月下旬～10月上旬）

- 各評価分科会における事後評価（案）の作成、各委員への確認

⑤ 事後評価の決定・公表

（10月中旬頃）

- 新道路技術会議において事後評価（案）を審議し、合議により事後評価を決定。
- 事後評価結果の公表

9. 評価結果の通知及び公表

（1）公表する研究成果関係資料

研究終了報告書／研究概要／Summary of the Study／成果報告レポート （※様式１（一部分）及び様式2は非公表）

＜公表例（イメージ）＞

【様式１】

研究終了報告書

【様式１】

道路政策の質の向上に資する技術研究開発

【研究終了報告書】

		氏　名（ふりがな）	所　属	役　職
①研究代表者		藤井聡（ふじい　さとし）	東京工業大学 大学院理工学研究科	教授
②研究テーマ	名称	モビリティマネジメント:社会心理学的アプローチに基づくコミュニケーション型TDMに関する研究開発		
	政策領域	［主領域］1.新たな行政システムの創造 ［副領域］10.自然環境・地球環境	公募タイプ	タイプIII　新政策領域創造型
③研究経費（単位：万円） 小数点切り捨て。	平成17年度	平成18年度	平成19年度	総合計
	８００	８００	８００	２４００

④研究者氏名 （研究代表者以外の研究者の氏名、所属・役職を記入下さい。なお、記入欄が足りない場合は適宜追加下さい。）

氏　名	所属・役職（※平成20年3月31日現在）
石田　東生	筑波大学社会工学系　教授
太田　勝敏	東洋大学　国際地域学部　教授
大森　宣暁	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻　講師
高野　伸栄	北海道大学大学院工学研究科都市環境工学専攻　准教授
高山　純一	金沢大学工学部建設工学科 教授
谷口　綾子	筑波大学社会工学系　講師
谷口　守	岡山大学環境理工学部環境デザイン工学科　教授
土井　勉	神戸国際大学経済学部都市文化経済学科　教授
福田　敦	日本大学理工学社会交通工学科　教授
松村　暢彦	大阪大学大学院工学研究科土木工学専攻　准教授

【様式3】

研究概要

【様式３】

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成〇〇年度採択）

研 究 概 要 （イメージ）

番号	研究課題名	研究代表者
No.22-〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇に関する研究開発	〇〇大学　教授　〇〇　〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇を実現するため、〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇を研究目的として、〇〇を実施する研究開発。

1．研究の背景・目的（*研究開始当初の背景・動機、目標等*）

2．３ヵ年の研究内容（*研究の方法・項目等*）

3．研究成果（*図表・写真等を活用し分かりやすく記述*）

4．主な発表論文（*研究代表者はゴシック、研究分担者は下線*）

5．今後の展望（*研究成果の活用や発展性、今後の課題等*）

6．道路政策の質の向上への寄与（*研究成果の実務への反映見込み等*）

7．ホームページ等（*関連ウェブサイト等*）

【様式4】

Summary of the Study

【様式４】

"Technical Research and Development for Improving Quality of Road Policy"

Summary of the Study (image)

No.	Theme	Representative of Researchers
No.22-〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇univ.　Prof.　〇〇〇〇

〇〇

1. Background and Object

2. Activity in Research Period(3 Years)

3. Result

4. Papers for Presentation

5. Practice of the Study and Future Subject

6. Contribution to Improving Quality of Road Policy

7. Reference Website

【様式5】

成果報告レポート

ISSN 1883-3594
NO. 17－1

CART
COMMITTEE ON ADVANCED ROAD TECHNOLOGY

道路政策の質の向上に資する技術研究開発
成　果　報　告　レ　ポ　ー　ト
No. 17－1

研究テーマ
社会心理学的アプローチに基づく
コミュニケーション型TDMに関する研究開発

研究代表者： 東京工業大学教授　藤井　聡
共同研究者： 筑波大学教授　石田　東生
東洋大学教授　太田　勝敏
東京大学講師　大森　宣暁
北海道大学准教授　高野　伸栄
金沢大学教授　高山　純一
筑波大学講師　谷口　綾子
岡山大学教授　谷口　守
神戸国際大学教授　土井　勉
日本大学教授　福田　敦
大阪大学准教授　松村　暢彦

平成２０年７月

新道路技術会議

（2）評価結果の通知及び研究成果の公表方法

・事後評価結果については、研究代表者に書面にて通知するとともに、新道路技術会議のホームページ上において、研究成果関係資料とあわせてPDF形式で掲載するなどにより公表。

・成果報告レポートについては、冊子を作成するとともに、ISSN番号（ISSN 1883－3594　道路政策の質の向上に資する技術研究開発成果報告レポート）を付し、国立国会図書館、国土交通省（図書館、道路局）、国土技術政策総合研究所（図書館、道路研究部）にて保管し、閲覧できるようにする。

10. フォローアップ調査の実施

今後、フォローアップ調査として、終了後の研究状況、成果の活用状況、本制度の有効性等に関するアンケート・ヒアリング等の実施に際して、研究代表者へ協力を依頼。

11. 今後のスケジュール（事後評価関連）

	Ｈ２５年度				
	６月	７月	８月	９月	１０月
第２１回新道路技術会議 （事後評価要領等決定）	▼ 6/6				
事後評価関係書類作成 （研究代表者への通知等）	▼ 資料作成期間（約2ヶ月） ▼ 作成依頼通知		提出〆切		
事前査読期間 （評価委員による事前査読）			━━━		
研究成果発表会（ｿﾌﾄ/ﾊｰﾄﾞ） （研究成果の普及促進）				━━━	
研究評価会（ｿﾌﾄ/ﾊｰﾄﾞ） （事後評価（案）作成）				━━━	┅┅┅ 評価案作成
第２２回新道路技術会議 （事後評価決定）					━━━

評価分科会委員（案）

別紙1

分科会	No.	領域	タイプ	委託研究テーマ	委託先	研究代表者	評価分科会	
							分科会長	委　員
ソフト分野	22-1	3	Ⅱ	都市高速道路における突発事象時の最適交通運用についての研究開発	東京工業大学	東京工業大学 教授　朝倉　康夫	石田委員	赤羽委員 川﨑委員 竹内委員 中越委員 根本委員 森川委員 吉川委員 道路局担当官 国総研道路研究官
	22-2	6	Ⅰ	混合交通流の自動解析に基づく交通安全性・円滑性評価手法および交通制御・道路運用手法の構築	京都大学	京都大学大学院 准教授　須﨑　純一		

※本年度の事後評価の対象研究課題はソフト分野（2課題）のみ（ハード分野なし）。

研究成果発表会・研究評価会　ソフト分科会
議事次第（案）

日時：平成25年9月上～中旬
13：00～15：00（仮）

場所：霞ヶ関周辺（予定）

1．開会

2．挨拶、実施方法の説明（13：00～13：10）

3．研究成果報告（1課題あたり40分）
　1）研究課題1（13：10～13：50）
　2）研究課題2（13：50～14：30）

～休　憩　（10分）～

4．事後評価の審議（14：40～15：00）

5．閉会（15：00頃）

1課題あたりの時間配分は以下を予定。
○20分説明（パワーポイント使用予定）
○20分質疑応答
○10分審議